

！ アブラナ科野菜に寄生する「根こぶ病」に注意！！

本県では、平成24年頃よりキャベツなどアブラナ科野菜の「根こぶ病」被害が問題となっています。

根こぶ病に感染すると、根がこぶ状に膨れ、養水分の吸収が阻害され、ひどい場合は地上部の生育が著しく阻害されます。

土壌伝染性の病害で、一度圃場が汚染されると、原因となる糸状菌(カビ)が10年以上土壌中で生存できる厄介な病害です。

根こぶ病菌は、排水の悪い酸性土壌で発生しやすくなり、履物や農業用機械等に付着した土などで簡単に伝染が拡大しますので、早期に発見し対策することが非常に重要となります。

写真のような症状を見かけましたら、大隅地域振興局農政普及課までご連絡いただき、確認作業を依頼するとともに事後対策の指導を受けてくださるようよろしくお願いいたします。

○ 発生しやすい主なアブラナ科植物は以下のとおりです。

野菜	雑草
キャベツ、はくさい、かぶ、ブロッコリー、カリフラワー、こまつな、ちんげんさい、みずな、たかな、のざわな、わさび、みぶな、たいさい、など	なずな、いぬがらし、すかしたごぼう、たなづけばな、おおばたなづけばな、など

■ 連絡・問合せ先：大隅地域振興局 農政普及課 ☎ 0994(52)2144



き もつき 名人録

がんばる町民
ここにあり

□ vol.06 計画的に育成牛導入 優良子牛育てる

11月17日に肝属中央家畜市場で開催された子牛セリ市で、子牛品評会において郡の保留牛(※)に輝き、めったにない高値の156万円(税抜)で取引された「ひめ号」。旭ヶ丘振興会の神宮司親文さん(75)に育てられ、8カ月齢で早期出荷された雌の子牛です。

ちなみに雌牛では、子牛の平均価格は約75万円、育成牛の平均価格は約152万円、肥育牛の平均価格は約100万円です(全て税抜)。

「これまでも良い牛を導入するように心がけていましたが、今回は若い、これから流行する種牛の育成牛を早めに導入していました。おかげさまで無事に大きな子牛が産まれました」と話す神宮司さん。腹を冷やさないように床の乾燥を保つことを心がけてきたそうで、「ひめ号」はすすくと育ち立派な牛になりました。神宮司さんは「思いがけない高値がついて嬉しいです」と喜んでいました。

神宮司さんは石工の職人として長く活躍され、現在は牛飼いにその職人魂を発揮されています。これからもお元気で良い牛作りを頑張ってください。

※ 繁殖用などとして郡内に保留することを望まれる優良な牛

